



### 中央中等教育学校校歌 中央高等学校校歌

作詞 草野 心平 作曲 渡辺 浦人

一、春はむらさき 夏は雲  
 群青の秋 雪の冬  
 白亜に映える 学び舎に  
 太陽光は ふりそそぐ  
 おお朋がらよ 眉あげて  
 火の山の 高きにならえ  
 若人よ 腕組みて  
 新しき学を きわめん  
 群馬中央 われらが母校  
 われらは真と美に生きる

二、赤城風を なつかしみ  
 仰ぐは四季の 榛名山  
 校旗はためく 学び舎に  
 われらは集う おおらかに  
 おお朋がらよ 胸張りて  
 健康に わが身鍛えん  
 若人よ こぞりてぞ  
 新しき文化 築かん  
 群馬中央 われらが母校  
 われらは善と義に生きる

# 中央 同窓会報

第27号

## CONTENTS

<b>特集</b> 中央中等の現状 .....	6
<b>特別寄稿</b> .....	3
<b>メッセージ</b> .....	4
<b>母校だより</b> .....	8
<b>進路だより</b> .....	14
<b>同窓会活動報告</b> .....	16
他	

■ 題字：8期 廣瀬 正史（少林山住職） ■ 表紙の写真：現在の校舎（平成31年3月撮影）

### 令和2年度通常総会延期のお知らせ

令和2年6月13日(土)に予定されていた本年度通常総会は新型コロナウイルス感染拡大のため延期となりました。次回の開催日程は様子を見ながら7月中に決定しますので、8月になりましたらホームページで確認するか、学校にお問い合わせください。

発行

## 群馬中央同窓会

卒業者数 15,037人（中央高等学校 13,697人 中央中等教育学校 1,340人）2020年4月1日現在  
〒370-0003 群馬県高崎市新保田中町184 TEL.027-370-6663 FAX.027-370-4910  
ホームページ <http://www.chuo-ss-ob.com>



中央高等学校  
昭和38年1月1日創立



中央中等教育学校  
平成15年4月1日創立

同窓会役員あいさつ



人と人とのつながりを  
～群馬中央同窓会を  
盛り上げましょう～

同窓会副会長 時澤 秀明

7～8年前、中央高校の先輩から「同窓会の役員をやってよ。それほど仕事はないから」と言われ、軽い気持ちで引き受けました。言われたほど軽い仕事ではありませんでしたが、引き受けてよかったと思っています。「同窓会なんて、昔の友達が集まって思い出話を肴に飲むためのもの」くらいの認識しかなかった私は、同窓会活動にあまり関心がなかったのです。しかし役員になってみると、同窓会の役割がだんだん理解できるようになりました。第一は、後輩たちの活動を支援すること。中央高校から、中央という名前と校歌、フロンティアスピリットを引き継いだ中央中等教育学校の生徒は、様々な分野で大活躍しています。そんな生徒のがんばりを、同窓会や朋友基金が金銭的に支援したり、学校からの要望により卒業生が教育活動のお手伝いをしたりしています。それが分かっただけで、中央中等生の話が出るのが楽しみになりました。また、こうした支援活動や同窓会事業を通して、年代を超えて人と人につながること同窓会の大切な役割であると思っています。

以前勤務した職場に、中央高校を卒業した後輩と中央中等を卒業した後輩がいました。それが分かった途端、「そうなんだね」と笑顔になり、同じ中央の卒業生としての和やかな連帯感が生まれたものです。それはその後一緒に働く中で、仕事を順調に進めていく潤滑油のようになってくれました。

「中央」の卒業生は15,000人を超えました。互いに顔も名前も分からない人がほとんどでしょうが、数多い学校の中で、赤城山を背に前橋・高崎にまたがるあの学び舎で成長した卒業生は、まさにワンチームの仲間です。様々な困難が押し寄せる大変な世の中ですが、中央同窓生としてのつながりが少しでも会員のみなさまの力になることを願っています。今後も、同窓会活動へのご理解・ご協力をお願いいたします。

校長あいさつ



着任のご挨拶

校長 田島 公基

令和元年度末の人事異動により、伊勢崎清明高校から赴任して参りました。よろしくお願ひ申し上げます。

中央中等教育学校は、中央高校の長い歴史と伝統を引き継ぎ、6年間の一貫教育を力強く推進する時代のニーズに合致した学校であり、生徒が教育活動に対して全力で取り組んでいる大変活力ある学校と認識しています。この度の異動により本校にお世話になることができ、大変光栄に感じております。周年誌等を読み返し、諸先輩方の母校に対する熱い思いや歴代校長先生方のご尽力に触れ、身が引き締まる思いを感じると共に、今後もより一層の努力を重ねて参りたいと思っております。

近年、知識・情報・技術をめぐる変化が激しく予測困難な時代に突入したと言われております。答えのない課題に対して、多様な他者と協働しながら納得解を見出す力などが強く求められています。昨年度から取り組んでいる本校オリジナルのFEWC (Frontier Education for World Citizenship) プログラムは、SDGsなど地球規模の課題に対する探究やTED型プレゼンによる課題解決に向けた提案等、次期学習指導要領の柱である「学びに向かう力の育成」を先取りする大変素晴らしい内容と自負しております。同窓会の皆様には朋友基金等を通じてこの活動に対してもご支援いただいていることに、改めて感謝申し上げます。

これからも良き伝統を継承し発展させながら、時代を生き抜く力を育み世界に貢献できる人材の育成を目指して、教職員と生徒が丸となって教育活動に取り組んで参りたいと考えております。群馬中央同窓会の皆様におかれましては、引き続きご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます、ご挨拶いたします。

特別寄稿

フロンティアスピリット

(株)エムダブルエス日高  
代表取締役

22期 北嶋 史誉



今回、執筆の依頼を受け、いつも母校の事を思い出させてくれるこの同窓会報に寄稿できることにとても感謝しています。

私は、高校卒業後、東北福祉大学に進学し、大学卒業後は、医療福祉の業界一筋に仕事をしております。福祉分野の仕事では、2000年4月より公的介護保険の導入で民間事業者の自由参入が認められた事は、記憶に新しいのではないのでしょうか。それまでの福祉事業は、措置と呼ばれ行政区管轄の仕事であり、画一的なものでした。民間の自由参入が許可され、まだ20年足らず。すなわちイノベーションチャンスがたくさんあると確信し、日々、新事業創出に努力しております。

私は、7年前から会社の代表となり、会社の理念を『ビジネスを通して社会的課題を解決する』としました。今も高校時代のスローガンである『フロンティアスピリット』に背中を押され、仕事をするように思えます。

そんな時、群馬イノベーションアワード2013で大賞を受賞することができ、その後、医療福祉業界でイノベーションを狙う多くの若者が弊社の入社試験を受験してくれるようになりました。最近では、群馬イノベーションアワード2017で、中央中等の5年生が大賞に輝きました。大学生部門・社会人部門を抑え、現役高校生の大賞受賞は、5年目にして初めての快挙でした。弊社のビジネスプランもファイナルステージに残りましたが、部門賞すら獲得することができませんでした。しかし、悔しいという思いよりも、後輩の活躍に清々しい思いであったことは言うまでもありません。

まさに、フロンティアスピリットは、今も中央中等で受け継がれているのだと、嬉しく思いました。

人生は何事もチャレンジです。新たな分野を開拓することはリスクを伴い、恐怖すら感じます。失敗を恐れ、動かないのではなく、小さな失敗をたくさんして、大きな成功を掴んでいきましょう。フロンティアスピリット！今も私の支えになっています。

和ールド Citizen

株式会社コマックス  
代表取締役

23期 小山 勝宏



「和を以て貴しとなす」座右の銘と聞かれたら私はこの言葉を掲げます。聖徳太子の言葉です。仲良くやろうは勿論のことですが、みんなで十分に議論しようという思いが込められていると解釈しています。

私は野球部に所属しベンチ入りメンバーではありませんがチームは「甲子園大会出場」という最高の結果を出してくれました。当時の野球部監督は現野球部監督の松本稔先生です。私たちと年の差がなく古い指導方法とは一線を画す先生のご指導は新鮮でした。先輩後輩の隔てがなくのびのびとした野球は下馬評を覆す“ミラクル”を起こしたのです。当時の印象としては互いに意見を出し合いみんなで答えを出すという姿勢がチームの「和」を強固にしていたと思います。今時な表現をすればまさに「ONE TEAM」でした。

理系大学卒業後、電気機器関連に就職しました。希望の設計業務ではありませんでしたが16年間を経理一筋で取り組みました。そこでは素晴らしい上司と仲間恵まれ、風通しの良い環境で現職に役立つ経営について勉強させていただきました。40歳の時に父が経営する食品会社に転職しました。事業内容は全国生産2位の群馬県産の梅を加工販売する事業と食料品関係の卸・貿易事業です。父が他界し6年前から代表として千辛万苦しております。震災の影響で業績が後退した時期もありましたが従業員の「和」に支えられながらV字回復を達成しました。現在、食品輸出に力を入れており量はさておき7か国の輸出実績を10か国以上に増やすことを目標にしております。世界と和食で繋がりたい。「和ールドCitizen」自分になりたいイメージを母校の理念にあやかって勝手に作ってみました。自分のやりたいことだけで成功を納めることができる人はごくわずかです。他人から期待を込めて与えられた環境というのは自分が必ず乗り越えられる壁の筈です。しっかりとそこで腰を据えて根をはることが大事だと思います。本校に入学し勉学に励む皆さんにはその素養は十分であると確信しております。成功を実現させる最大の武器は「コミュニケーション」です。最後になりますが「和」を大切に立派な「World Citizen」に成長されることを期待します。

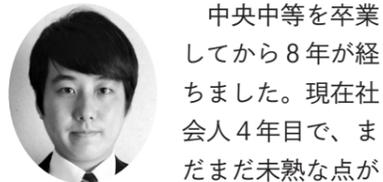
\*このページ以降、原稿は全て昨年度中に書かれたもので、文中の所属・肩書・学年等は令和2年3月1日現在のものです。

# Message

メッセージ

## 挑戦する気持ちを 忘れずに

高崎市役所  
中等3期 宮本 一生



中央中等を卒業してから8年が経ちました。現在社会人4年目で、まだまだ未熟な点が多く、勉強の毎日が続いております。学生時と比べ、幅広い方々とお話をさせて頂く機会が増えました。各所で中央の先輩方が活躍されていることを知るたびに、大きな刺激を頂いております。また、アドバイスやサポートを頂くこともあり、本当にありがたく感じております。

在学時は野球部に所属しておりました。3年間お世話になった顧問の松本先生との時間は、大きな財産となっております。「試行錯誤を繰り返し、短・中・長期の明確な目標を立て努力を継続していく。失敗をしてしまったり、自分に合わないと感じた場合は違う角度から検討してみる。」野球の指導を通してご教授頂いた考え方の一つです。検討を重ね目標を持ち、柔軟な発想で挑戦していく思考は、今でも物事を考えるうえで大切にしております。野球の技術だけでなく、人間として成長させてくださった先生に対し、この場をお借りして長年のご活躍に敬意を表するとともに感謝を申し上げます。

社会人2年目の春、私は転職を決意しました。中央を卒業後、大学を経て県内の金融機関へ就職しましたが、高崎市の政策や市の勢いに魅力を感じ、その一員とし

て働きたいと考え、社会人3年目を迎える際に転職をしました。

現在、日本の地方自治は大きな変化の時代を迎えています。政府主導による画一的な地方行政から脱却し、各自治体主体による政策を実行するような体制へと変化しています。また、インターネットの普及が加速させたグローバル化により、地域と世界との距離は以前からは考えられないほど近くなりました。今後も時代は変化を繰り返し、地域も変化し続ける必要があると考えます。中央で学んだFrontier Spiritsは、そうした時代でより一層求められる精神だと思います。挑戦する気持ちを忘れずに、新しい時代の開拓者となれるよう、地域社会の発展に日々精進していきたいと考えています。

## 立教大学硬式野球部に 入部してみても

立教大学 野球部 4年  
中等7期 吉田 純也



私は、中央中等という野球では無名の高校から一般受験を経て、立教大学に合格し野球部に入部しました。周りは甲子園に出て勝ち進んでいくような選手ばかりで無名の高校出身だった私

は幾度となく悔しさを感じていました。だからこそ試合に出て彼等を見返してやろうという気持ちで必死に練習をしました。正直、私ももっと強豪校に行っておけばよかったなと思うことは何度もありました。なぜなら強豪校で野球をやっていたというだけで先輩や監督はまず注目しますし、今まで強いところで野球をやってきたという経験はものすごい自信になっていると感じたからです。しかし、やっていくうちに私でも戦えることに気付きました。大学野球というのは、もちろん全体での練習も大事ですが、余った時間をどう自分で有効に活用し、最大限に努力できるかというのがとても大事な世界だったからです。

私は、中央中等の野球部の顧問であった松本先生に野球を教わりたくて入部しました。先生からは野球の知識はたくさん教わりましたが、それよりももっと教わったのは、自分で考えてどうよくなるか考えて練習することです。高校のグラウンドは狭く、夜は電気もほとんどなく限られた時間、環境で野球をやらなければなりません。そのためいかに効率的に練習をしたらよくなるのかということをはかの高校の人よりも考えて三年間野球ができました。その中等で学んだことがあったから、大学でも人一倍考えて努力でき周



## 自分を見つめて

東京大学 応援部副将 4年  
中等7期 田中 郁行



私は大学4年間で東京大学応援部に所属し、最後の年は副将として総勢100名ほどの部員のまとめ役もやらせてもらいました。

東大応援部では未だに厳格な上下関係が残っています。学ランを着て応援席を走り回り、声が枯れても叫び続けるような時代遅れの集団です。強豪私立大にはやはり勝てない試合も多く、特に東京六大学野球では過去に93連敗を喫しました。

けれどもその分、応援部では「人情」と「泥臭さ」を何よりも大切にしていました。仲間が戦っている限り、どんな状況でも勝利を信じて応援する。尊敬できる先輩だからこそ、厳しい言葉も受け入れられる。自分の弱さと向き合い、「選手を応援するに足る人物になっているか？」と自問自答を繰り返す。そんな応援部が私は好きでした。

大学では現在、看護を学んでいます。よく「東大なのに医師じゃなくて看護師なのか？」と聞かれますが、病気の治療よりも、病気と共に生きていく人の人生そのものを支える看護の役割に魅かれました。今後は臨床と研究を通して、看護を深めていきたいです。

りの強豪校出身の選手に負けず、3年春にはレギュラーとして出場し、神宮球場でホームランを打つことができました。そのとき、肩書きはどうであっても自分次第で未来は大きく変えられるのだと感じました。

これから社会に出たらさらに自分の考える力が試される機会が増えると思います。それも中等で学んだことを活かし、必死に考えチャンスを掴めるよう頑張っていきたいと思います。

## 中央中等の後輩に 送る言葉

慶應大学 野球部 4年  
中等7期 杉本 京平



慶應大学工学部4年の杉本京平です。今振り返ってみて、中央中等で6年間の学生生活を過ごしたことは後悔していません。私が中央中等に入学した理由としては東京六大学リーグの選手として神宮球場でプレーしたかったからです。そのため大学受験に集中する環境が整っている中央中等を選択しました。結果として慶應義塾大学でリーグ戦のメンバーとしてプレーさせてもらいました。僕は中央中等に入学した当初

は学力の順位は学年で100番台でした。しかし、大学で何がしたいかという具体的なイメージを持つだけでも勉強に対するモチベーションが格段に異なると思います。部活と勉強の両立としては出された課題をしっかりとやり、テスト期間はしっかりと対策をしていれば大丈夫だと思います。

次に言っておきたいことは大学に入学することがゴールではないということを伝えたいです。大学に入学して何をやるかが4年間過ごし、大切だと実感しました。どの大学に行くかはこれからの長い人生の目標を考えた時に手段であり目的ではないことを頭に入れておいてほしいです。第一志望の大学に行けたからといって、よい大学生活を送れているとも限らないし、第一志望の大学に行けなかったからといって、行った大学に後悔している人を私は一人も見ることがないので大学がすべてではないのかなと思っています。

最後に伝えたいことは生きることが一番大事だということです。これからの人生想像以上に苦しいことは何度もあると思いますが、それにくじけて命を絶つことだけは絶対にしないでください。耐えられなくなったらすべてやめてしまえばいいし、何もしなくていいです。生きているだけであなたは人生の成功者です。



# 中央中等の現状

～ FEWC 初年度の取り組みから～

本校では、平成30年度まで5年間に渡り文部科学省指定SGH事業を通して積み上げてきた、課題研究の取り組みやグローバルリーダー育成のための様々な行事およびプロジェクトを継続・発展させるため、本年度、新たな教育プログラムを「FEWC (Frontier Education for World Citizenship) (フューク、地球市民育成のための開拓的教育)」と名付け、実施してまいりました。FEWCプログラムでは、従来のSGHの取り組みの基礎部分にイノベーション学習など新たな重点的要素を加えるとともに、ハワイ研修の代わりにジュネーブ国連研修を取り入れるなど、グローバルな社会で活躍できる人材を育てるためのより力強い、開拓的な教育を目指しております。今回はその取り組みの中から、ジュネーブ国連研修(3・4学年、8月)、高校生探究学習発表会(4・5学年、12月)、イノベーション企業訪問(4学年、2月)の様子をご紹介します。



ーバルリーダーとしての意識や資質を高める。  
 (2)国連で働く人たちから直接話を聞く機会を通じて、海外で仕事をする喜びや意義について学び、将来の進路選択に生かす。  
 (3)ヨーロッパの教育や文化、自然景観に直接触れることにより、視野を広げ、感性を豊かにする。

8/16(金)

3・4年生22人がアブダビ経由でジュネーブに到着。

8/17(土) 研修1日目

国連広場訪問、レマン湖畔の散策、旧市街地史跡めぐり

ジュネーブという街の歴史を知り、この地に国連が置かれたことは極めて自然な成行だったのだと、実感できる1日となりました。

8/18(日) 研修2日目

アヌシー(フランス)観光、国連赤十字博物館訪問

午前中、フランスの中世の街、アヌシーへ。美しい自然と古い街並みを満喫したあと、ジュネーブへ戻り、最初の国連関連施設の訪問を行いました。人権問題について、また問題解決のための仕事について、芸術的であり、また最新の知的手法で表現された作品のような映像・オブジェを目の前にして、生徒は懸命にメモをとりながら、真剣な眼差しでツアーガイドの説明に聞き入っていました。

8/19(月) 研修3日目

ジュネーブ大学見学、大学生との交流、ディスカッション、国連本部訪問・ガイドツアー、国民高等難民弁務官事務所訪問・日本人職員によるレクチャー

ジュネーブ大学学生との英語による交流とディスカッションで、生徒はヨーロッパで学ぶ学生との交流から文化の違いへの興味をさらに深めた様子でした。午後にはついに憧れの国連本部、本物の会議場を訪れ、座席に着くことも許されて、感慨もひとしお。国際連盟本部時代からの歴史ある建物内を巡りなが

## 2019年ジュネーブ国連研修 概要報告



### ①期間

令和元年8月16日(金)日本発、22日(木)帰国

### ②本研修の趣旨

(1)国連機関での研修を通して世界の現状や課題解決のための方策について学び、地球市民・グロ

ら、世界のリーダー達の活躍する舞台を実感しました。

8/20(火) 研修4日目

国際労働機関 (ILO) 訪問・邦人職員によるレクチャー。世界保健機関 (WHO) 訪問・邦人職員によるレクチャー。国際人事コンサルタント・小島晶子氏によるレクチャー。国連機関邦人職員の方々と夕食懇談会

国連機関の中でも極めて重要な役割を担う2つの組織、ILOとWHOの最前線で働く邦人職員と、30年以上国連機関でキャリアを積んできた小島晶子氏、の計3名の方々からの素晴らしいレクチャーに加え、ランチ・ディナーにはその他4名の国連邦人職員との懇談の機会に恵まれ、生徒は国際機関で働くことの意味やそこで職を得るための方法や心構えなど、実にさまざまなことを学ぶことができました。

8/21(水)～22日(木)

移動～帰国。

## 高校生探究学習発表会



2019年12月15日に、第4回関東・甲信越静地区高校生探究学習発表会が開催されました。この発表会は、主催者の立教大学が、国際化を推進していくにあたり、スーパーグローバルハイスクール (SGH) 指定校との連携強化の一環として2016年度から開催しています。今年度は20校から約200名の生徒が参加し、日々取り組んでいる課題研究について日本語または英語によるプレゼンテーション、ポスター発表を行いました。

その中で、ポスター発表では、全41組が参加し、各自取り組んでいる課題研究の内容をまとめたポスターを用いて、来場者に対して随時発表を行い、優秀賞の中の1校に本校が選ばれました。

発表終了後、全体で表彰式が行われました。松本茂グローバル教育センター長からは、「環境、異文化、平和など、多様な社会課題をテーマに研究がなされていたが、それを自分事として捉え、さらにフィールドワークや実験を行うなど、具体的なアクションを起こしている点が素晴らしい取り組みである。今日学んだことを今後の研究に活かして欲しい。」と激励の言葉が送られました。

## イノベーション企業訪問



### (1)目的

多様化する社会の変化に対応し、新たな価値を見出し、創造する事業を展開している企業への訪問を通して、イノベーションを生み出す考え方やプロセスを学び、自らの課題研究においてイノベーションの視点から解決策を提案するためのヒントを得る。

### (2)訪問期日

令和2年2月13日(木)

### (3)訪問先企業

- ・ヤマトロジスティクス(株) ・Apple Japan
- ・(株)DeNA ・野村ホールディングス(株)
- ・清水建設(株) ・APコミュニケーションズ
- ・(株)エイチ・アイ・エス ・ヤフー(株)
- ・プラス(株) ・インテル(株)

日常よく目にする著名企業への訪問ということで、生徒たちのモチベーションは訪問前から高まっていました。

当日は、8コースに分かれ、午前と午後で合わせて2つの企業を訪問しました。

普段入る事の出来ない企業最前線の現場も見学させていただき、また、実際に職場体験もさせていただき、貴重な経験となりました。

今回のこの経験を、今後の自分達の学習や進路に是非生かしてもらいたいと思います。

生徒会長あいさつ



## 変化と創造

平成31年度生徒会長  
5年 鈴木 英未

まだ体に馴染まない制服を身に着けて本校に入学してから早5年。課題や小テストに追われる目まぐるしい生活にやっと慣れてきた頃かと思えば、時がたつのは早いもので卒業まであと1年となっていました。

さて、私が生徒会選挙を経て生徒会長に就任させて頂いてから半年がたちました。就任以降沢山の活動をこなしていく中で日々感じるがあります。それは「変化」です。2019年度からFEWCという新たなカリキュラムが導入され、本校のグローバル人材の育成がより本格化したことももちろんですが、特に生徒自身が学校を「変化」させようとする姿がよく見受けられるようになってきました。

文化祭を一味違うものにしたいと尽力する生徒や今の校則に不信感を抱いて声をあげる生徒…令和という時代がスタートした今、あえて既存の伝統を見直して新たな伝統を創り上げようとする姿に、同じ生徒という立場でありながら感銘を受ける毎日です。

なにより、生徒自身が生徒の力で学校をより良くしようと行動を起こしてくれることが一生徒として、生徒会長として嬉しい限りです。それと共に、そんな無限の可能性を秘めた生徒を生徒会長として全力でサポートしていきたいと強く思います。

先輩方が伝統を積み上げてきたように、これからもこの中央中等は生徒1人1人で創り上げていく学校であってほしいです。

中央高校からフロンティアスピリットを受け継いで中央中等となり17年。歴代の先輩方が築き上げてくれたこの学校をより愛される学校にすべく、生徒会長である自分に何ができるのか考えて残りの1年を有意義に過ごしていきたいと思っています。

今度は、私たちがパイオニアになる番です。さあ、一緒にこれからの中央中等を創り始めましょう！

体育祭実行委員長あいさつ



## 協力することの大切さ

平成31年度体育祭実行委員長  
6年 宮前 仁一

体育祭前日は雨、当日も曇りという予報でした。しかし、前日は涼しい環境でリハーサル、当日は曇一つない快晴で、本番に強い中央中等生はやはり運も持っているのだと感じました。

今回の体育祭は、学年を問わず交流できるように呼びかけました。特にダンスの練習では、高学年の先輩が丁寧に教えているという声を先生方からいただきました。綱引きや棒引きでも、他学年同士が作戦会議をしているなど、縦のつながりを意識してくれている姿が見られました。それらの協力が功をなし、6つの学年がそれぞれの良さを発揮し、中等の強みを改めて感じました。

前回、前々回は競技の変更が多かったこともあり、今回は競技についての変更点はあまりありませんでした。その分前回の反省を活かし、多くの改善策を講じることができ、生徒の混乱も少なく、スムーズに進行することができました。



体育祭を含めた大きな行事は、自分の得意な分野を披露できる絶好の機会になります。しかし、それと同じくらい、自分の弱さも顕著に表れてしまいます。自己嫌悪に苛まれてしまう人もいることでしょう。しかし、そんなとき、自分の弱さを補ってくれる仲間がいるはず。私自身、今回の体育祭で、自分の力不足を多くの人に支えていただき、ようやく体育祭を実行できました。幸いここは、県内各地から、様々な力を持った生徒が集まってくる学校です。だからこそ、自分の武器を磨くだけでなく協力することをこれからも中等生には学んでほしいです。



最後に、今回の体育祭の実行委員長をやらせて頂き本当にありがとうございました。体育祭後には、同級生だけでなく、先生方や下級生からの感謝と労いの言葉をたくさんいただき、思わず涙がこぼれました。また、今回の体育祭を生徒が思い切り楽しむことができたのは、体育祭の準備や運営にご尽力下さった先生方、体育祭開催にあたってご協力頂いたPTAの方々、たくさんの方々が支えてくださったからこそです。生徒を代表して、感謝の言葉を述べさせていただきます。本当にありがとうございました。

歴史の浅いこの中央中等、これから長い歴史を紡いでいくのだと思います。しかしその歴史の中にも、生徒が笑顔と学ぶ喜びを忘れず、毎日元気に登校できることを願って、結びとさせていただきます。



### 開校記念講演会より

2019年10月3日、開校記念講演が、映画監督の清水崇氏（中央高24期卒）を迎え中等体育館にて行われました。

監督のお子さんが同年代とあって、生徒と同じ目線での講演を望んでおられ、各学年代表が登壇しての対談というかつてない形式で行われ、生徒にもより身近な講演となりました。

多くの質問に対し、自らの経験を踏まえて丁寧にお答えいただきました。

講演後の生徒の感想の多くは、生徒自らの今後の生き方を考えることについての内容が多かったことからこの講演の意義の深さを感じ取ることが出来ました。

### 令和2年4月1日付 学校教職員人事異動 (敬称略)

離任者			
職名	【教科】	氏名	転出先等
校長		清水 照久	定年退職
副校長		福島 利行	前橋市立荒牧小学校
教頭		岩田 悦夫	高崎東高校
教諭【保健体育】		栗原 美穂	藤岡市立小野中学校
教諭【数学】		三宅 賢	富岡市立東中学校
教諭【地理】		轟木 重利	前橋女子高校
教諭【英語】		星河 聖	高崎市立新町中学校
養護教諭		井川 真美	太田高等特別支援学校
教諭【理 科】	【理 科】	遠藤 良太	中央中等教育学校実習教諭
教諭【英 語】	【英 語】	落合 さつき	
実習教諭		廣瀬 智成	高崎東高校
主 事		伊藤 尚人	沼田特別支援学校
非常勤【社会】		松下 晋	上武大学
非常勤【保健体育】		笠原 那絵子	

新任者			
職名	【教科】	氏名	前任校等
校長		田島 公基	伊勢崎清明高校
副校長		宮崎 孝宏	伊勢崎市立殖蓮中学校
教頭		大塚 道明	前橋南高校
教諭【地理】	【地理】	龍見 陽介	伊勢崎清明高校
教諭【数学】	【数学】	吉田 翔一	高崎市立矢中中学校
教諭【保健体育】	【保健体育】	高岩 友美	藤岡市立小野中学校
教諭【英語】	【英語】	小澤 俊平	富岡市立東中学校
養護教諭		住谷 洋子	高崎北高校
教諭【理 科】	【理 科】	岡田 季子	育休明け
教諭【英 語】	【英 語】	川田 由美	高崎経済大学附属高校
実習教諭		遠藤 良太	中央中等教育学校育休補
事 務		重田 貴子	伊勢崎興陽高校
非常勤【社会】		星野 太	前橋市立桂葉東小学校
非常勤【保健体育】	【保健体育】	小野 雄平	筑波大学大学院

**部活動報告**

**部活動報告**

**科学部**

私たち科学部は、計41人で活動しています。「責任感・連帯感・学習意欲の向上」というスローガンの下、前期生も後期生も一丸となって、日々研究をしています。先日行われた群馬県理科研究発表会では日頃の研究の成果を発表してきました。ほかにも、全国高等学校総合文化祭、科学の甲子園ジュニア、ロボカップジュニアなど様々な大会に出場しています。朋友祭では皆さんに科学の素晴らしさをご覧に入れましょう！科学が未来を変えることを信じて、私たちはこれからも研究に邁進していきます。

5年 赤間 彩珠



**後期サッカー部**

後期サッカー部は現在、5年生7人、4年生7人、3年生7人、マネージャー2人の計23人で活動しており、私たちの目標である「ベスト16」を達成するために日々の練習に励んでいます。春、夏、冬には合宿や遠征を行ったり、試合後にはミーティングをして試合の分析や改善点を話し合ったりとチーム力の向上を図っています。このメンバーでできる限られた時間を大切に、支えてくれる先生方や保護者の方などすべての人への感謝の気持ちを忘れずに、一つでも多くの勝利を目指します。

5年 大西 優吾



**美術部**

私たち美術部は3年生5人、4年生5人、5年生7人の計16人で毎週月曜日と金曜日の放課後に美術室で活動しています。油絵や水彩画、クロッキーやイラスト等の絵画だけではなく木を彫ったりハーバリウムを使用して置物を作る部員もおり、それぞれが作りたかったものを部員同士で見せ合ったり顧問の先生方からのアドバイスを貰いながら熱心に制作しております。

今年は主に、総文祭に出展する作品や毎月一回発行する部誌JAM、そしてFRONTIERの挿絵等の制作を行い、様々な場で私たちが制作した作品を多くの方々に見ていただく機会を頂きました。これからは来年度の朋友祭に向け、個人個人が自身の作品制作に取り組み、また、互いに協力し合って素晴らしい展示会を開けるよう、日々一生懸命に頑張っていくと思います。

5年 田中 遥



**後期女子テニス部**

私たち後期女子テニス部は現在計12人で日々練習に励んでいます。屋外の部活動なので、練習内容が天候や季節に大きく左右されます。暑い夏場は日焼けしながらも、新人戦の本戦出場という目標に向けて切磋琢磨します。赤城風が吹きつける冬場は暗くてボールが見えないため、体力づくりをして春の大会に備えます。新人戦の団体戦では悔しい思いをしたので、団体戦でのベスト8を目指して、常日頃支えてくださっている方々への感謝と、テニスへの情熱を胸に今後も部員全員で精一杯頑張ります。

5年 横濱 恵利菜



**後期女子バドミントン部**

後期女子バドミントン部は計8人という少ない人数で練習しています。新人戦の団体戦では準優勝をすることができましたが、個人戦では思うような試合ができず、悔しい思いをする部員が多かったです。5年生にとって最後の試合である総体、インターハイ予選で、それぞれにとってベストなプレーで悔なく終われるように、指導者のいない厳しい環境ではありますが、一人一人が自主性を持って、切磋琢磨しながら実力を高めようと常に全力で取り組んでいきたいと思っています。

5年 武井 陽香



**後期男子テニス部**

私たち後期男子テニス部は現在13人で活動しています。練習は主に校外のテニスコートで行っており、学校外で練習させていただいていることに感謝しています。今年度は県高校総体、新人戦共にベスト32と良い成績を残すことが出来ませんでした。次の大会では部員一人ひとりが多くの勝利を目指し、個人では全員が本選出場、団体では目標として以前から掲げている関東大会出場を果たせるよう一生懸命努力し、皆さんに良い報告が出来ればと思っています。応援のほどよろしくお祈りします。

5年 宮川 拓巳



**後期卓球部**

私たち後期卓球部は男子9人女子7人の16人で活動しています。前回の新人団体戦で、男子はベスト16まで勝ち進むことができました。現在は春に控えている高校総体に向けて部員16人と顧問の鈴木先生が一丸となって練習しています。今年になって部員も増え、来年からは約10年ぶりとなる女子の団体戦出場が可能になりました。これからもより良い結果が出せるように楽しみながら日々頑張っていきますので、応援をお願いします。

5年 吉沢 一貴



**後期文化部茶道班**

私達茶道班は、競技かるた班と共に後期文化部として活動しています。文化部は、緩い部活だと思われがちですが、茶道という日本文化に触れることができる時間は、私達にとって貴重な時間です。そして、私達の一番大きな目標である朋友祭でのお点前の披露に向けて日々練習しています。先輩方が引退し、新たに3年生を迎えて新体制となった茶道班。たった3人しかいない5年生が後輩を引っ張っていかねばならず、上手いかわないことも多々ありますが、これからも頑張っていきたいと思っています。

5年 荻野 琴音



部活動報告

前期女子バレーボール部

私たち前期女子バレーボール部は2年3人、1年8人の計11人で活動をしています。私たちチームの目標は「県大会出場」です。毎日練習を一所懸命やっていた結果として、この秋の新人戦では目標達成できました。その後も週末の練習試合をたくさんし、1人1人が毎回反省と自分の課題を見つけ、どうしたらいいのか考えて平日の練習に励んでいます。私たちは今、春の大会に向けて練習をしています。そこではさらなる高みを目指して頑張っていこうと思います。応援よろしくお祈りします。

2年 青山 さら紗



前期文化部

私たち前期文化部は1年生11人、2年生15人の計26人で活動しています。部員はみんな笑顔で優しく、雰囲気の良い部活にも負けません。月・火・木は百人一首、金は茶道、第一火は華道をしています。華道では、校外からひとみ先生を招いて教えて頂き、校内の様々な場所に生けています。茶道では、後期茶道班の優しい先輩方に基本やマナーを教えて頂いています。朋友祭では浴衣を着て振る舞うのでぜひいらしてください。未来に役立つ日本の文化を学ぶため、これからも頑張ります。

2年 菊原 莉子



前期卓球部

こんにちは、前期卓球部です。私たちは、顧問斉藤先生、副顧問小井戸先生のご指導の下、2年9人、1年11人で活動をしています。学年を越えて仲が良く、明るい雰囲気の中、練習に励んでいます。春の市大会に向けて、私たちは個人の課題を解決できるよう練習に取り組む必要があります。前期卓球部を支えていただいている先生方や家族への感謝を忘れず、また、それらに応えられるような結果を出せるように頑張っていきます。ぜひ、応援よろしくお祈りします。

2年 青山 倫太郎



応援團

私たち応援團は計6人で活動しています。主な活動は壮行会での応援と夏の高校野球応援です。

長い歴史を持つ応援團という組織には、存在意義と精神があり、そして応援という行為にはパワー・魅力があります。もう一つ大切なのは、私たちの心です。生半可な応援に結果が伴うほど甘くありません。まずは私たちが、誰かを応援するに値する技術と人間力を養わなければなりません。気持ちの入った真の応援ができるよう、これからも声を上げていきたいと思っています。

5年 清水 陽太郎



活躍している後輩達

校外活動へも積極的に参加

特集(6ページ～7ページ)にありますFEWCの2年生のプログラムの一つに、「群馬巡検」というものがあります。自分達のテーマに合う、県内の企業等を自分達で見出し、自分たちで連絡を取って訪問をしていくといった内容ですが、その中で2つの班がフードバンクまえばしを訪問し、非常に高い評価をいただいたのでご紹介します。

お礼の言葉

フードバンクまえばし スタッフ一同

群馬県立中央中等教育学校2年生は総合的な学習の時間に4人グループをつくり、統計資料を活用したテーマ研究を行っているそうです。その活動の中で、1つの班が「食品ロスを減らすには～フードバンクを広めよう～」・もう1つの班が『食品ロスゼロ宣言～「Mottainai」の合言葉で～』をテーマで研究を進めており、フードバンクまえばしで話を聞きたいと申し出てくださり、今回来所してくださいました。食品ロスの問題からフードバンクの存在を調べて下さり、実際に来て見て下さったことを職員一同大変嬉しく感じました。皆さん真剣に話を聞いてくださり、研究に対する熱意が伝わってきました。最後に感想を書いていただき読ませていただきましたが、「フードバンクを一人でも多くの人に広めたい」、「これからの色々な課題解決に挑戦していきたい」等意気込みを感じ、大変心強く感じました。

今回、話をすることで私たちも勉強になり、新たな気づきもありとても良い経験が出来ました。ありがとうございました。今後は担う学生さんたちの活躍が今から楽しみです。



最後に、生徒の感想を掲載します。

群馬巡検

2年 宇津木 芽生

私達は「食品ロスを減らすために フードバンクを広めよう」のテーマでフードバンクまえばしの方にお話を伺いました。フードバンクとはお米や保存食、企業からのクラッカーなどの食べ物を寄付して

いただき、それを食べ物に困っている方や子ども食堂に提供するという取組です。実際、厳しいルールもありますが、食品ロスとなってしまう食べ物を人助の為に利用できる素晴らしい制度だと思いました。この研究を通して、一人でも多くの人に広めていき、低い認知度を高めていきたいです。



大学ビブリオバトル首都決戦で最高賞を獲得

大学生のお薦め本の日本一を決める書評合戦「第10回全国大学ビブリオバトル首都決戦」が令和元年12月22日、東京都のよみうり大手町ホールで開催されました。

ビブリオバトルとは、出場者がお薦めの本を紹介し、聴衆が読みたくなった本(=チャンプ本)を投票して決定する、スポーツのような知的書評会。

令和元年度は聴衆約500人による投票の結果、本校卒業生の中山息吹さん(群馬大学理工学部1年)が紹介した「天国からはじまる物語」(ガブリエル・ゼヴィン著、理論社)が最高賞の「グランドチャンプ本」に選ばれました。全国の地区予選、地区決戦に128校、1526名が参加し、最終決戦に36人が出場。準決勝の勝者6人の中から選ばれた快挙でした。以下、ご本人のコメントを掲載します。

群馬大学 理工学部 1年 中等10期 中山 息吹

私は昨年12月22日に行われた、第10回全国大学ビブリオバトル首都決戦に参加し、最優秀賞であるチャンプ本を獲得することができた。ビブリオバトルの存在を知った昨年度、高校生大会で群馬県代表となり、全国大会への出場権を獲得したものの、センター試験の日程と重なったため辞退することとなった。この時の無念を胸に同じ本で出場し、チャンプ本を獲得できたことには一層の喜びを感じている。

ビブリオバトルにおける重要な要素の一つがプレゼン力だ。中央中等教育学校に入学したばかりのころは、人前で話すことすら苦手だった私が、6年間でプレゼン中に聴衆の顔を見ることに楽しさを感じるまでに成長したのは、偏に中央中等独自のカリキュラムのおかげである。

さて、ビブリオバトルは活字文化推進活動の一つであるが、それ以上に、出会いの場であると考えている。自らは手に取らなかったであろう本との出会い、そして、本が繋げてくれる人との出会いがそこにある。そんなビブリオバトルのより広い普及に向け、尽力したい。

# 令和元年度卒業生(11期生)進路概況

群馬県立中央中等教育学校進路指導部

## 1 概況

令和2年3月に本校を卒業した11期生122名(男子61名、女子61名)は「第1志望校、現役合格」をめざして一人ひとりが前進し、自分の夢や希望を実現すべくそれぞれの進路先に進みました。現役進学率は、91.0%です。

本校の伝統的な進路指導は「自らの努力で進路をつかみとる力」や社会における「自己有用感」をキーワードとしています。生徒は授業や諸活動に対して探究的な態度で取り組み、将来自らが取り組む社会的な課題を発見します。次に、自己の適性をふまえ、その研究・解決に取り組む場を第1志望校として設定します。そして、その自己実現をめざして学力の向上に取り組めます。これらの過程における、生徒一人ひとりに寄り添ったきめ細かい支援も、本校進路指導の特色のひとつです。

本校は平成26年度に文部科学省からSGH(スーパー・グローバル・ハイスクール)に指定され、グローバル教育を推進しています。さらに、平成29年度からは全校をあげてアクティブ・ラーニングを軸とした授業改善に取り組んでいます。平成26年度に本校に入学した11期生は、こうした先進的な教育環境下で高い進路意識を養い、本校を卒業しました。近未来の社会において本校の教育理念である「World Citizen」として活躍するものと確信しています。

## 2 最難関大、医学部医学科

現役生は東京大に4名(文三1名、工学部推薦1名、理一2名)のほか、京都大に3名(総合人間、理、医-人間健康科学各1名)が進学します。男女別内訳は東京大が男子3名、女子1名。京都大はすべて女子です。また、医学部医学科については、群馬大に3名のほか北海道大、秋田大、新潟大、佐賀大、日本医科大にそれぞれ1名、計8名が進学します。その男女別内訳は男子5名、女子3名です。

## 3 国公立大

最難関大を含む国公立大には現役生のべ78名が合格し、そのうちの65名が進学します。国公立大現役合格者数と進学者数は、いずれも本校開校以来最多となります。世界水準の研究力をもつ指定国立大学である東北大には5名、名古屋大、大阪大にはそれぞれ2名が進学します。

## 4 私立大

近年の文部科学省による入学定員管理の厳格化等によって、首都圏有名私立大入試が難化しています。

この点は、私立大を第1志望校とする11期生が少数であった背景のひとつです。この結果、私立大進学者数は本校開校以来最少の43名となりました。最多進学先は慶應義塾大、中央大、立教大で、それぞれに4名ずつが進学します。なお43名のうち指定校推薦による進学者は1名(早稲田大先進理工)でした。

## 5 過年度卒業生(浪人生)【参考】

現役時には紙一重で涙をのんだ卒業生の進路先としては、慶應義塾大(法)、北里大(医)、防衛医科大学校(医-医)等があげられます。

## 6 展望

昨今の社会変化に伴う大学入試改革が進行し、12期生以降はセンター試験後継の「共通テスト」を受験します。本校は、グローバル教育と授業改善をいっそう前進させることが、改革への対策に直結するものと考えています。生徒全員の「第1志望校、現役合格」を実現するために、今後も関係の皆様のご理解、ご支援を賜りますようお願いいたします。

【表1】卒業生の進路別実人数(現役生のみ)

卒業期	卒業生数	大学		準大学等	就職	進学努力	現役進学率(%)
		国公立	私立				
1	124	50	53	4	0	17	86.3
2	124	51	56	4	0	13	89.5
3	119	50	48	0	0	21	82.4
4	120	49	54	3	0	14	88.3
5	124	60	52	4	0	8	93.5
6	119	61	46	3	0	9	92.4
7	122	60	53	2	0	7	94.3
8	122	44	62	5	0	11	91.0
9	123	52	55	1	0	15	87.8
10	122	57	59	0	0	6	95.1
11	122	65	43	3	0	11	91.0

【表2】11期生文理別、男女別進路先(実人数)

	卒業生数	大学		準大学等	就職	進学努力
		国公立	私立			
文系男子	24	11	12	0	0	1
文系女子	36	19	14	2	0	1
理系男子	37	21	8	1	0	7
理系女子	25	14	9	0	0	2

- ・準大学等…文部科学省所管外の大学校のほか、短大、専修・各種学校、海外の大学等を含む
- ・現役進学率…(卒業生数-進学努力)÷卒業生数×100



## 大学等合格者数(最近の3年間)

群馬県立中央中等教育学校進路指導部

- ・年度は入試年度
- ・数字はのべ人数
- ・( )内は過年度卒業生の内数
- ・大学名、学部名等は現在の名称
- ・準大学等…短大、専修・各種学校、海外の大学等を含む
- ・令和2年3月末日までの判明分

## 国立大学

大学名	H30	H31	R2
旭川医科		1	
小樽商科	1		
北海道			1
北海道教育			1
弘前			1
岩手		1	
東北	6 (1)	10	5
秋田			1
山形	2 (1)	2	
茨城	1	1	
筑波	2	2	4
宇都宮	1		
群馬(社会情報)	1	1	1
群馬(共同教育)	4	3	4
群馬(理工)	4	5	1
群馬(医-医)	4	3	3
群馬(医-保健)	1	2	
埼玉	1		2
千葉	5 (1)	1 (1)	3
お茶の水女子	2	1 (1)	1
電気通信	1		2
東京	2	3 (2)	4
東京外国語	1	1	1
東京海洋			1
東京学芸	3	1	1
東京藝術		2 (1)	1
東京工業	1	1	
東京農工		2	2 (1)
一橋	2	2	
横浜国立		1	3
新潟	4 (1)	1 (1)	3
富山	1	1	
金沢	1	2	2
山梨	1 (1)		1
信州	2 (2)		
静岡			2
名古屋		1	2
名古屋工業			1
京都	3	2 (1)	3
大阪	2	1	2
大阪教育		1	
神戸	1		
鳥取			1
鳴門教育			1
広島	1	1	
佐賀			1
合計	61 (7)	56 (7)	62 (1)

## 公立大学

大学名	H30	H31	R2
岩手県立	1		
国際教養	2		1
群馬県立県民健康科学	1	1	1
群馬県立女子		3	3
高崎経済	3	7	6
前橋工科		1 (1)	1 (1)
東京都立	1		
横浜市立	2		1
新潟県立			2 (1)
長野			1
長野県立			1
公立諏訪東京理科		1	1
岐阜薬科		1	
九州歯科			1
合計	10	14 (1)	19 (2)

## 私立大学(抜粋)

大学名	H30	H31	R2
自治医科		2	
共愛学園前橋国際	7	5	6
高崎健康福祉	9	10	8
青山学院	14	9 (2)	12
慶應義塾	12 (2)	14 (2)	11 (1)
国際基督教	2	1	1
駒澤	3	7 (2)	6
芝浦工業	16 (3)	8 (1)	19
上智	7	6	1
専修	12	11	8
中央	14	22	19
津田塾	8	5	8
東京女子	6	2	8
東京理科	18 (1)	23 (5)	22
東洋	17 (2)	18	18
日本	9	7	16 (3)
日本女子	3	7	11
法政	17	22 (2)	5
明治	20	27 (5)	21 (1)
立教	6	26 (1)	17
早稲田	17 (2)	28 (6)	13 (1)
同志社	1	2	2
立命館	6 (1)	6	4
合計	383 (20)	393 (41)	371 (13)

## 準大学等(抜粋)

学校名	H30	H31	R2
防衛大学校	1		2
防衛医科大学校			1 (1)
海上保安大学校			1
合計	2	0	9 (1)

収支報告

平成30年度  
群馬中央同窓会決算

■ 一般会計				
収入の部 (単位：円)				
科目	予算額	決算額	差引増減	備考
繰越金	212,821	212,821	0	
運営費計	3,414,000	3,262,000	△152,000	
入会金	1,230,000	1,220,000	△10,000	10,000円×122名
特別会費	984,000	976,000	△8,000	8,000円×122名
年会費	1,200,000	1,066,000	△134,000	2,000円×533名
総会費	200,000	91,000	△109,000	
特別積立会計より	1,350,000	2,000,000	650,000	
その他収入	179	4	△175	預金利息
合計	5,177,000	5,565,825	388,825	

■ 一般会計				
支出の部 (単位：円)				
科目	予算額	決算額	差引増減	備考
会議費計	520,000	337,317	182,683	
総会	400,000	287,411	112,589	通常総会
会議費	120,000	49,906	70,094	役員会
事業費計	4,089,000	4,707,804	△618,804	
会員親睦費	100,000	170,000	△70,000	活動費補助
母校寄与事業	1,350,000	1,350,000	0	図書蔵書、地球市民語学研修補助ほか
会報制作・発行費	2,300,000	2,564,220	△264,220	会報制作・発送
行事費	300,000	585,460	△285,460	開校記念式典ほか
Webページ設置管理料	39,000	38,124	876	Webページ管理料
役員費計	85,000	53,380	31,620	
通信費	15,000	0	15,000	
払込手数料	70,000	53,380	16,620	年会費払込料加入者負担額 中央中等職員歓迎会参加費ほか
渉外費	100,000	85,740	14,260	
広告費	50,000	41,600	8,400	高校野球ガイド広告掲載料ほか
慶弔費	120,000	21,308	98,692	香典、供花
卒業記念品費	85,000	77,209	7,791	卒業証書ホルダー
転退職員饗別	70,000	70,000	0	転退職員饗別
積立金	0	0	0	
予備費	58,000	0	58,000	
合計	5,177,000	5,394,358	△217,358	

収入総額5,565,825円 - 支出総額5,394,358円 = 171,467円 (次年度へ繰り越し)

■ 特別積立会計				
収入の部 (単位：円)				
科目	予算額	決算額	差引増減	備考
繰越金	35,888,307	35,888,307	0	
一般会計繰入金	0	0	0	
その他収入	693	278	△415	預金利息
合計	35,889,000	35,888,585	△415	

■ 特別積立会計				
支出の部 (単位：円)				
科目	予算額	決算額	差引増減	備考
同窓会費一般会計へ	1,350,000	2,000,000	△650,000	
周年事業	0	0	0	
その他支出	34,539,000	0	34,539,000	
合計	35,889,000	2,000,000	33,889,000	

収入総額35,888,585円 - 支出総額2,000,000円 = 33,888,585円 (次年度へ繰り越し)

監査の結果、適切と認めます。  
平成31年3月31日 会計監査 工藤 雅史 生沼 英治

平成31年度  
群馬中央同窓会予算

■ 一般会計				
収入の部 (単位：円)				
科目	予算額	前年度予算額	比較増減	備考
繰越金	171,467	212,821	△41,354	
運営費計	3,432,000	3,414,000	18,000	
入会金	1,240,000	1,230,000	10,000	10,000円×124名
特別会費	992,000	984,000	8,000	8,000円×124名
年会費	1,200,000	1,200,000	0	2,000円×600人
総会費	200,000	200,000	0	
特別積立会計より	1,700,000	1,350,000	350,000	
その他収入	533	179	354	
合計	5,504,000	5,177,000	327,000	

■ 一般会計				
支出の部 (単位：円)				
科目	予算額	前年度予算額	比較増減	備考
会議費計	520,000	520,000	0	
総会	400,000	400,000	0	通常総会
会議費	120,000	120,000	0	役員会
事業費計	4,439,000	4,089,000	350,000	
会員親睦費	200,000	100,000	100,000	活動費補助
母校寄与事業	1,000,000	1,350,000	△350,000	図書蔵書、地球市民語学研修補助ほか
会報制作・発行費	2,600,000	2,300,000	300,000	会報制作・発送
行事費	600,000	300,000	300,000	開校記念式典補助ほか
Webページ設置管理料	39,000	39,000	0	群馬中央同窓会ホームページ管理料
役員費計	85,000	85,000	0	
通信費	15,000	15,000	0	郵便料、メール便
払込手数料	70,000	70,000	0	年会費払込料加入者負担額
渉外費	100,000	100,000	0	交際費
広告費	50,000	50,000	0	高校野球ガイド広告掲載料ほか
慶弔費	120,000	120,000	0	慶弔
卒業記念品費	85,000	85,000	0	卒業証書ホルダー
転退職員饗別	65,000	70,000	△5,000	転退職員饗別金
積立金	0	0	0	特別会計積立金
予備費	40,000	58,000	△18,000	
合計	5,504,000	5,177,000	327,000	

■ 特別積立会計				
収入の部 (単位：円)				
科目	予算額	前年度予算額	比較増減	備考
繰越金	33,888,585	35,888,307	△1,999,722	
一般会計繰入金	0	0	0	
その他収入	415	693	△278	預金利息
合計	33,889,000	35,889,000	△2,000,000	

■ 特別積立会計				
支出の部 (単位：円)				
科目	予算額	前年度予算額	比較増減	備考
同窓会費一般会計へ	1,700,000	1,350,000	350,000	
周年事業	0	0	0	
その他支出	32,189,000	34,539,000	△2,350,000	
合計	33,889,000	35,889,000	△2,000,000	

期別同窓会

7期同窓会



平成30年9月8日、伊香保グランドホテルにおいて、卒業以来最初の期別同窓会が開催されました。

当日は30名が出席し、夜遅くまで懐かしい思い出話で盛り上がっていました。

次回、喜寿を迎えるまでには2回目の同窓会を企画したいと思いますので、是非ご参加ください。

22期同窓会



中央高校を卒業してから33年の時を超え、22期生（昭和62年卒）の第2回同窓会を11月3日文化の日に高崎エテルナにて、恩師手島仁先生をお迎えして華々しく開催いたしました。総勢37名、瞬間に33年前のあの日に戻り、ハイスクールライフな時間を過ごしました。今回の代表幹事は松本康司君。関東統括部長としての手腕を発揮し松本幹事の音頭のもと参集、フロンティアスピリットな司会で進行しました。最後は恒例の校歌、応援部の井野孝一君のタクトで大合唱。在学中こんなに大声で歌ってたっけ？と回想しながら終了しました。今回は野球部西山学君を代表幹事として実施します。詳細はLINEグループの「昭和61年度中央高校卒業生」とwebページ「群馬中央同窓会」で告知します。また互いに健康で会いましょう。(写真撮影：竹田龍志郎君)

22期代表 櫻井 智明

OB会

ラグビー部OB会

2019年は、ラグビーワールドカップ日本大会で大きく盛り上がりました。そのおよそ半年前、中央高等学校ラグビー部のOB会が高崎市内で開催され、そこでは、日本がどのくらい世界の強豪相手に戦えるのが話題となりました。自分たちが現役の頃は、ワールドカップが日本で開催されること、チームジャパンが世界の強豪に勝利することなど、夢のまた夢でした。しかしその夢が現実となったのです。自分たちの下積みがあってこそ、今の日本ラグビーがあるというような気分を味わっています(笑)。平成20年から始まったラグビー部OB会は隔年で開催されており、来年で8回目となります。また懐かしい仲間が集まり、ワールドカップの余韻に浸りつつ、楽しいひと時を過ごしたいと思います。(写真は2017年の第6回OB会のもの)



その他活動報告

首都圏支部より

昨年度は諸事情により首都圏支部の懇親会は開催できませんでした。今年度は是非とも開催したいと思いますので、宜しくお願いいたします。

首都圏支部長 後藤 隆次郎 (9期)

朋友会ゴルフコンペ



第75回優勝 天田 行彦さん (5期)  
第76回優勝 岩見 克一さん (5期)

コンペは年2回、4月29日と11月3日に開催予定です。皆様ご参加ください。

連絡先：佐藤 義久 (11期) 携帯：090-3539-5745  
E-mail：secfield@olive.ocn.ne.jp

## 平成31年度 通常総会・懇親会開催

令和元年6月22日(土)にエテルナ高崎に於いて総会・懇親会が開催されました。

ここ数年出席人数が少なく一抹の寂しさを感じていますが、中等の卒業生も1,400人近くとなり、また、1期生をはじめ多くの卒業生が社会人となり既に各企業を中心となって多方面で活躍をしています。

同窓会としましては、このような方々が積極的に参加でき、また、中央高卒業生の方々にもより多く参加していただけるような総会・懇親会の在り方を模索していきたいと思っておりますので、引き続きご協力をお願いいたします。



### 平成31年度 同窓会組織役員

<p><b>■ 会長</b> 大島 聡 (9) <small>令和元年12月31日で退任</small></p> <p><b>■ 副会長</b> 佐藤 義久 (11) 時澤 秀明 (13) <small>令和2年1月1日より会長代行</small></p> <p><b>■ 書記</b> 福田 幸正 (8) 鈴木 正治 (8)</p> <p><b>■ 会計</b> 小和瀬一幸 (14)</p> <p><b>■ 会計監査</b> 工藤 雅史 (12) 生沼 英治 (17)</p> <p><b>■ 理事</b> 千木良芳明 (3) 藤川 清幸 (11)</p>	<p>川島 陽一 (14) 砂長 聡 (14) 関口 朋克 (20) 中台 啓一 (24) 渡邊 辰吾 (30)</p> <p><b>■ 幹事</b> 高橋 政臣 (33)</p> <p><b>■ 首都圏支部長</b> 後藤隆次郎 (9)</p> <p><b>■ 首都圏支部役員</b> 上原 裕一 (9)</p> <p><b>■ 顧問</b> 塚越 陽平 (1) 塚越三三男 (2) 市川 光則 (6)</p>
--	--

※ ( )数字は中央高校卒業期数

### 事業報告

#### 平成31年度 群馬中央同窓会事業報告

- 4月8日(月) 群馬県立中央中等教育学校第16回入学式
- 4月19日(金) 群馬県立中央中等教育学校学校主催歓送迎会参加
- 4月29日(祝) 第75回朋友会ゴルフコンペ
- 5月8日(水) 同窓会報発行
- 5月17日(金) 第1回役員会(総会準備 他)
- 6月14日(金) 第2回役員会(総会準備)
- 6月22日(土) 通常総会・懇親会
- 7月31日(水) 第3回役員会(総会の反省)
- 10月3日(木) 開校記念式典・記念講演参加
- 10月10日(木) 第4回役員会(今後の役員会の在り方)
- 11月3日(祝) 第76回朋友会ゴルフコンペ
- 1月30日(木) 第5回役員会(次年度に向けて)
- 2月28日(金) 群馬県立中央中等教育学校第11期卒業生同窓会入会式入学式出席(記念品贈呈)
- 3月2日(月) 群馬県立中央中等教育学校第11回卒業式

#### 年会費振込についてのお願い

会費は同窓会の運営のほか、母校の教育支援等の発展のためにも使われています。主旨をご理解いただき、年会費2,000円を納入頂けますようお願いいたします。お手数ですが、同封の振込用紙をご利用の上、郵便局からお振込みください。

- 年会費振込口座 ゆうちょ銀行 00570-4-49058  
口座名 群馬中央同窓会
- ATMによる振込も可能ですのでご利用ください。  
(ただし、手数料がかかります)  
  - ・群馬銀行 本店営業部 普通預金 2445643  
口座名 群馬中央同窓会 会長 大島 聡
  - ・東和銀行 新前橋支店 普通預金 0372142  
口座名 群馬中央同窓会 会長 大島 聡

**編集後記** 会報27号発行の運びとなりました。学校をはじめ、ご協力頂いた皆様に感謝申し上げます。

さて、この編集後記を執筆している現在、ニュースは新型コロナウイルス一色です。そのあおりで総会も延期となり、状況によっては中止となる可能性もあります。非常に厳しい日々が続きますが、こんな時こそ力を併せてこの困難を乗り越え、後年、この厳しさを笑って語れるように頑張りましょう。

来年、今回とは全く違った内容の編集後記が書けることを祈念します。